



2016年(平成28年)
8月号(No. 855)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

記念イベント『マナスル』から『山の日』 いま未来に伝えること。』を開催	1
自然保護全国集会を高知で開催	4
日本三百名山登頂シリーズ⑨	5
第36回日本登山医学会開催報告	6
さんけん通信	7
「山の日」記念切手を発売	8
第4回登山教室指導者養成講習会のお知らせ	8
東西南北	9
Climbing&Medicine・73	10
新入会員	10
活動報告	11
医療委員会／山行委員会	
支部だより	13
越後支部	
図書受入報告	14
図書紹介	15
会務報告	16
会員異動	18
ルーム日誌	18
INFORMATION	18
編集後記	19

▶日本山岳会事務局(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10～20時
水・金……………13～20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10～18時

記念イベント『マナスル』から『山の日』 まで60年、いま未来に伝えること。』を開催

5月の連休にネパールの首都・カトマンズで開催された記念式典に引き続き、今度は国内で7月10日、マナスル初登頂60周年を祝い、本年から施行される国民の祝日「山の日」を記念し、登山界の未来を展望するイベントが本会主催で開催された。

本イベントは7月10日(日)、東京JICA市ヶ谷ビルにおいて日本山岳会の主催で開催された。

「今年はマナスル初登頂から60年、さらに国民の祝日『山の日』の施行を迎える記念すべき年である。マナスル初登頂が日本にもたらした意義を振り返りながら、登山のみならず、幅広い公益目的を持つ『山の日』運動を推進し、活動の裾野を大きく広げてきた日本山岳会の足取りを通してわれわれは、未来に

向けて何ができるか、何をなすべきか、考えたい。」と開催趣旨に謳っている。

参加者は171名で、会員外が92名と過半数を占めたことは、当会にとつて大変喜ばしいことであった。映画上映や講演、座談会は2階の国際会議場で、記念展示は同じく2階の展示スペースとセミナールームが利用された。

オープニングは10時15分。まずは本イベントの総合プロデューサ

ーである大久保春美副会長が事業の趣旨説明を兼ねて開会宣言。次いで主催者である小林政志会長が挨拶に立った。

続いて全国山の日協議会、日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤ協会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、日本山岳ガイド協会、ランタンプラン事務局ら各団体のご来賓が紹介され、ご来賓を代表して日山協の八木原会長が挨拶された。

10時30分からは、映画『マナスルに立つ』のダイジェスト版(40分)を上映。

「樞隊長は神様みたいな人」

講演のトップバッターはマナスル第3次隊に最年少隊員(当時25歳)として参加、見事第2次登頂に成功した日下田實さん。「マナス

ル初登頂から60年、いま『山の日』に思う」と題し、早大山岳部の後輩・成川隆顕さんとたくさんの映像を見ながらのトークショーとして進行された。

まずは5月連休のカトマンズでの歓迎ぶりに感謝されたのち、60



日下田さん(右)と成川さん



駐日ネパール大使から感謝の盾を贈呈される日下田さん

年前となるマナスル登山の思い出としては……。

「一番難しかったのは、黒岩の登りとエブロン・ルート（C5〜C6間）の急斜面だった。マナスルの頂上は狭く、加藤さんとふたり一緒に立てないので、交互に写真撮った。頂上で私がピース缶の中に残してきたマッチ箱が、30年後の日本隊によって持ち帰られ、今日も展示されているが、不思議な縁を感じる。横隊長は我々にとって神様みたいな人で、穏やかだが厳しい人だった。登頂までずっとC2（5600m）に滞在されたが、当時62歳、頭の下がる思いである。」



講演終了後、サイン会を開かれた石川さん(中央)

最後に『山の日』が誕生したことは、大変喜ばしい。人が変わり、時代が変わるが、山のすばらしさを語り継いでいってもらいたい。」と結ばれた。

なお、講演終了後、ネパール山岳協会のアンツェリン・シエルパ会長とクマール・ライ氏からとして、駐日ネパール大使より日下田さんに感謝の盾が贈呈された。

数々の映像とともに ご自身の山登りを語る

おふたり目の登壇者は、独特の感性で捉えられた映像や文章を多方面に発表して活躍されている写真家・石川直樹さん（日本山岳会会員）。お題は『マナスルが語るも

の『写真と映像の旅』

「私の最初の高所登山は、日本山岳会のデナリ気象観測機器設置隊（大蔵喜福隊長で、当時20歳。これが原点だ。つい先ごろ18年ぶりにノーマル・ルートから単独で再登頂できたが、自分でも経験値が上がっていることを感じた。」

「2001年（23歳）、チベット側からエヴェレスト登頂。2001（2011年）は世界各国を旅する。2011年、10年ぶりに高所登山を再開、ネパール側から再びエヴェレストに登頂。2012年、今度はローツェの頂からエヴェレストを見てみたくて挑戦したが、登頂は失敗。2012年秋、マナスルに登頂できた。」

「60年前のマナスルの映像は、衝撃的だった。現代のマナスル登山はポピュラーなものになり、世界各国から入山し、テント村ができている。初登頂時に比べると、隔世の感がある。サマ村の人たちは、60年前の日本隊のことをいろいろ話してくれた。」

などお話は多岐にわたり、最後はご自分でまとめられたマナスル登山の映像（15分）でエンディングとなった。

子どもたちの体験を通じて 山に親しむ機会を

昼食後、13時30分からは『マナスル初登頂』から『山の日』への60年、そして未来」と題して公開座談会。座長は萩原浩司さん（『山の日』事業委員会委員長）で、登壇者は傘木靖さん（長野県山岳総合センター）、村越真さん（静岡大学学術院教育学領域教授）、花谷泰広さん（山岳ガイド）、小林千穂さん（山岳ライター）の皆さん。

まずは傘木さんが「集団登山・学校登山の立場から」と題して、長野県における学校登山の実情とその意義について述べられたのち、「課題も多い。子どもたちがより主体的に取り組めるよう、登山前の事前学習や事後学習を充実させる必要がある」と語った。

次いで村越さんが「子どもがたくましく育つために」のタイトルで話された。「登山は子どもたちに貴重な体験を提供するが、その感動や教育的意義の陰で、子どもたちがさらされるリスクが見えなくなっている。教育現場においては、真のリスク・マネージメント能力を付ける必要があり、保護者もリスクを共有し、社会全体で

スクの価値を共有することが求められている」と語られた。

花谷さんは「最先端のクライミング事情」の題で、世界の登山界の動きを語られた。「この60年で登山のスタイルは大きく変化した。組織から個人で取り組む時代になり、よりスポーツヘシフトしたと感じる。しかし、登山の歴史を知ること、現代のクライマーが何をすべきか、謙虚に学ぶべきだ。」と考えを述べられた。

4人目の小林さんは「多様化する女性の山の楽しみ方」と題して、「2006〜07年ごろに始まった『山ガール』ブームは、もともと深く山を楽しむ『山女子』へと成長し、自立した登山者となっている。それぞれのライフスタイルに合った山登りを楽しんでいると言える。」と語られた。

最後に皆さんが、それぞれの山との出会いや置かれた環境の大切さを語り、それに対し感謝を述べられた。若者たちが大人から人生観や登山観を継承する機会が少なくなっている。若手を育てるために、山の先輩たちに大いに語ってもらいたい、と2時間の座談会を締めくくられた。

様々な展示で賑わった会場

展示スペースとセミナールームでは、各委員会の全面的な協力を得てAからJまで10ヶ所の記念展示が展開された。

【A】「日本山岳会の創立とマナスル初登頂」日本山岳会の創立と、その創立を強く示唆したW・ウェストンを紹介。また、マナスル初登頂時の写真や装備、記念の品などを展示した。山頂に残された煙草のピース缶やマナスル山頂の石の前で足を止める人が多かった。

(資料映像委員会)

【B】「マナスル登頂から今日まで」日本山岳会がヒマラヤで果たした業績「マナスル公式報告書や写真集、毎日グラフ臨時増刊号などを展示したほか、1970年のエヴェレストから2006年の冬期ローツェ南壁初完登までの業績を記録と写真で紹介。」(図書委員会)

【C】「ネパール大地震と復興支援」ネパール・ランタン谷『悲劇をのりこえて』大地震から1年余、ランタン谷の惨状と復興への歩みをパネルと映像で展示。併せてランタンプランそのものの紹介も。

【D】「山の日」運動の歩み」日本山岳

会の提唱で「山の日」運動が始まって7年余。8月11日の施行に至るまでの軌跡をパネル展示。

(「山の日」事業委員会)

【E】「日本の山を考える10+4冊」日本の山を考える上でぜひ読んでみたい10冊の本と、「山の日」関連で手にしてみたい4冊をプラス。

(図書委員会)

【F】「マナスル登頂への科学技術的サポート」5万分の1地形図の作製と無線連絡技術「マナスル初登頂を支えた科学の力も見逃せない。」

(科学委員会)

【G】「ウェストン祭70年のあゆみ(特別展)」ウェストン祭も今年で70回目。「山の日」施行を記念して作製



座談会の登壇者。左から傘木、村越、花谷、小林の各氏

されたパネルから特別展として12点を展示。

(信濃支部)

【H】「最新の装備にふれてみよう」60年前とは大きく進歩した最新の登山装備の一部を現物展示。

【I】「高尾の森、自然保護活動16年の姿」2001年から始まった森づくりの会の活動ぶりを写真・パネルで紹介。(高尾の森づくりの会)

【J】「日本山岳会の自然保護への取り組み」日本山岳会がこれまで取り組んできた自然保護・環境保全活動と、自然保護委員会や各支部における様々な活動をパネルで紹介する展示。(自然保護委員会)

(レポート・節田重節 写真・奥田有恒)



日本山岳会の歴史やマナスルの展示に見入る参加者

REPORT

自然保護全国集会を高知で開催

四国支部長 尾野益大

2016年度自然保護全国集会
が7月16、17両日、高知県高知市
の同県立牧野植物園で開かれ、来
賓をはじめ、本部自然保護委員会
や緑爽会のメンバー、全国16支部
の会員、関係者ら約90人が参加し
た。

本年度のテーマは「どうする！
山の野生動物との関わり」で、ニホ
ンジカの食害問題や希少な動植物
の保護などについて講演、意見交
換が行なわれた。

本部自然保護委員会の近藤雅幸
委員が司会進行役を務め、冒頭、山
田和人副会長が挨拶に立ち「人間
と動物が互いに与える影響は一面
的に捉えられない。どの点で折り
合えるのか、どの点は守らなけれ
ばならないのか、ディスカッショ
ンしたい。今年は日本山岳会にと
ってマナスル登頂60周年の節目の
年であり、国民の祝日『山の日』施
行の年。山に親しむ機会を得て山
の恵みに感謝したい。私たちの登
山活動、自然保護活動の原点を再
認識したい」と呼び掛けた。

来賓の挨拶では、高知県知事代
理の田所実・県林業振興環境部長、
高知市長代理の須内宗一・市環境
部副部長、林野庁の森谷克彦・四
国森林管理局保全部長、環境省の
牛場雅己・中国四国地方環境事務
所長がマイクを握り、日本山岳会
の歴史と自然保護活動を讃えると
ともに、高知での開催を歓迎して
もらえた。

本大会は、牧野植物園との共催
になったことから水上元園長から
も言葉をいただくことができ、植
物園の牧野富太郎の業績紹介と園
のPRがあつた。

基調講演は、高知・徳島両県に
またがる三嶺のシカの食害と対策
を主題にした「SO S三嶺の自然」。
高知大学理学部教授で四国支部の
石川愼吾・自然保護委員長が講師
となり、関係者と保護団体を結成
してからの取り組みを中心に長年
携わった活動を紹介。三嶺山城を
含む剣山山系に生えるミヤマクマ
ザサのニホンジカによる食害の現
状と変遷について図解や写真を用



約90人が参加した全国集会の様子

いて分かりやすく解説するとても
に、具体的な対策として汗を流し
て施してきた土壌流失防止のため
のシート敷設などについて説明。
シカの食害は全国的に同じか、よ
く似た状況にあることから参加者
は熱心に聞き入り、メモを取るな
どしていた。

続くグループ・ディスカッショ
ンは会場別の4分野で実施。山田
孝樹・NPO法人四国自然史科学
研究センター研究員による「四国
のツキノワグマは警告する」、前田
綾子・牧野植物園研究員による
「高知県の野生植物の現状につい
て」、山岳植物園を経営している山
田勲・四国支部会員による「山岳

植物園 情熱の45年〜オアシスの
可能性」、シカの解体から料理まで
している平井滋・NPO法人剣山
クラブ会員による「人間とシカの
自然界」があり、それぞれ興味深い
内容を聞くことができた。

各分野で現場を把握、分析して
いるほか、最新の知識と情報に精
通し、調査や保護活動で失敗と成
功を繰り返してきた講師による
「実践報告」であることから、各会
場の参加者のほとんどが真剣に耳
を傾け、時間が不足するほど活発
な意見交換が行なわれた。

これに先立つ午前中には、全国
各支部の報告があつた。初めに下
野綾子・本大会実行委員長、谷内
剛・本部自然保護担当理事、尾野
益大・四国支部長が順番に挨拶。
「野生動植物の増加も減少も、多く
は人間活動が原因となっている。
途方に暮れていられない。野生動
植物とうまく付き合う妙案を話し
合える機会になれば」などと話し
た。

支部報告は北海道、宮城、群馬、
埼玉、千葉、東京多摩、富山、石
川、静岡、東海、京都・滋賀、関
西、広島、東九州、宮崎各支部の
自然保護委員会のメンバーらが地



牧野植物園の観察コースの参加者

元で取り組んでいる特色ある活動や、直面している課題について紹介した。趣旨を説明するだけの短時間の報告に終わったものの、全国が現状が生の声で一度に分かる充実した会合となった。

また、館内のギャラリーには谷川光秋・四国支部会員が撮りためた四国の希少植物の写真を集めた展覧会「四国山地の危機の花たち」もあった。大勢の植物ファンの中には、「こんな花が四国にはまだあるんだ」と満足げな様子を見せながら熱心に見入る人がいた。

終了後は、工石山中腹にある工石山青少年の家に貸切バスなどで移動。屋外で、高知名物カツオの

たたき、シカとイノシシの料理をメインに夕食懇親会が催された。ビールのない全国の日本酒だけの宴となったが、心地よく酔った参加者の交流は次第に深まり、旧交を温め合ったり昼の集会について歓談したりと賑やかに過ぎていった。後半は体育館で四国支部会員とNPO法人剣山クラブ会員の音楽グループによる演奏会があり、なじみのフォークソングが数多く奏でられ、歌われ、夜遅くまで盛り上がった。

17日は生憎の曇り空で明けたが、尻上がりに天気は良くなった。ケース・スタディは計画どおり行なわれ、変化に富み水量に恵まれたサンショウウオの棲む秀溪「工石沢」の沢登り、高知市を見渡す市民憩いの山で知られ、自然休養林全国第1号の「工石山」のハイキングそして、「日本植物分類学の父」と呼ばれる牧野富太郎博士の業績を顕彰するために開園された「牧野植物園」の観察の3コースに分かれて開かれ、各グループはリーダーの指示の下、充実した行動が繰り広げられた。

日本三百名山登頂シリーズ⑨

紅葉の北海道・ニセコアンヌプリ
と余市岳登頂2日間の山旅

参加者募集!

「日本三百名山登頂シリーズ」という創立110周年記念事業の山行企画第9回のご案内。今回は北海道に飛び、道央の三百名山、ニセコアンヌプリと余市岳の紅葉を楽しもうというプランです。JACC会員以外の方も参加できますので、山仲間やご家族などお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。本ツアーには日本山岳ガイド協会のガイド資格を有するツアーリーダーと、インタープリター(解説員)として当該山域に精通しているJACC支部会員が、また、サポーターとして本部山行委員会スタッフがそれぞれ同行します。

【第9回日程・行程など】

期間 10月4日(火)〜5日(水)

集合解散 新千歳空港4日10時30分集合、新千歳空港5日18時

ごろ解散予定

行程 1日目／新千歳空港⇨五色

温泉……ニセコアンヌプリ……

五色温泉⇨ニセコ温泉郷(旅

館) 2日目／ニセコ温泉郷

⇨キロロ⇨ゴンドラリフト山頂

駅……余市岳……赤井沢コー

ス……キロロ⇨入浴(予定)⇨

新千歳空港

宿泊先 ニセコグランドホテル

食事 朝1回、昼1回、夕1回付き

(1日目は昼用の行動食をご用意下さい)

保険 国内旅行保険は任意でご加

入下さい(希望者に保険のご案内をお送りいたします)

参加費 3万9000円(現地移動交通費、現地宿泊代、食事代、保険代)

最少催行人数 12名

申込み・問合せ 〒105-000

03 東京都港区西新橋2-1

8-11第7東洋海事ビル4F

アルパインツアーサービス(株)

TEL 03-3503-0223

FAX 03-3508-2529

担当⇨国内事業推進課・児玉、

相山(すぎやま)、渡邊まで

✉ kokunai@alpine-tour.com

*お申込みの方に詳細なご案内をお送りいたします。

(創立百十周年記念事業実行委員会／山行委員会)

REPORT

第36回日本登山医学会開催報告

上小牧憲寛

2016年6月4～5日、栃木県総合文化センターにおいて、第36回日本登山医学会を、日本山岳会の後援を得て開催した。栃木県における初めての開催であり、参加者は171名であった。大会のテーマは「次世代の認定山岳医のために」であった。会長が認定山岳医委員長であるため、認定山岳医制度にスポットライトを当てつつ、若い世代への期待を込めて決定したテーマである。

学術集会は会長講演からスタートした。演題は「山と登山者がデータを与えてくれる」で、18年間行なってきた国内外の登山活動に伴い、高所で得たデータと、海外へ登山に行った仲間から得たデータを分析した研究結果を紹介した。同時に、若い研究者も高所へ赴きデータを収集し、登山医学の研究にこそしむことを勧めた発表であった。シンポジウムの主題は「外からみた認定山岳医制度」とした。多忙のため講習を受講する機会がない臼杵尚志理事、研修の場を提供し

ている国立登山研修所前所長の渡邊雄二先生、登山技術の指導を統括している角谷道弘ガイドらが考えを述べた。

パネル・ディスカッションの主題は「次世代を担う認定山岳医、認定山岳看護師の一人として」であった。若い認定山岳医5名に、各々の認定山岳医として今後どのような活動をしたのか、認定山岳医制度をどのような方向へと導いていきたいのか語ってもらった。

特別講演(1)では、青海大学医学部高原医学研究所所長の格日力先生が、高所における肺高血圧症について講演した。

特別講演(2)では、国立スポーツ科学センター・センター長の川原貴先生が、アスリートの医・科学サポートについて講演を行なった。2020年開催予定の東京オリンピックでは、スポーツ・クライミングの競技会が行なわれる予定で、日本山岳協会医科学委員会のメンバーに、本講演を参考にしていただければ幸いである。

一般演題は8つのテーマ(集団登山・山岳事故、循環器・呼吸器、山岳診療所、登山歩行、生理学、高地環境・登山環境、スポーツ・クライミング、高山病・高所順応)について40演題発表され、活発な質疑応答が交わされた。

学術集会の終了後の5日午後には市民公開講座「竹内洋岳の8000m14座登頂とそれを支えた猪熊隆之」を開催した。プロ登山家の竹内洋岳氏が8000m峰全14座

猪熊氏の、気象予報士として登頂を果たせるよう天候の情報を発信し、安全登山を支え続けた事実が聴衆を魅了した。一般登山者も竹内氏の登山に対する姿勢を参考に思い出に残る登山を行ない、気象予報会社からの天候情報を得て安全な登山を行なっていただければ幸いである。

(第36回日本登山医学会会長)



パネル・ディスカッションの様子

さんけん通信

第2期ミニ水力LED 照明工事が完了

ミニ水力小委員会では、自然エネルギー利用モデル構築の一環として、山研運営委員会と協力し、上高地山岳研究所(以下、山研と略す)の照明の電力をミニ水力発電で賄う工事を進めています。

山研裏手を流れる善六沢の水流を利用して発電した電力でLED照明を灯すものです。環境負荷の低減を図るとともに山研を利用する方々、見学に来られた方々へのPRを目的とし、2012年度に地下談話室の工事(第1期)を完了、

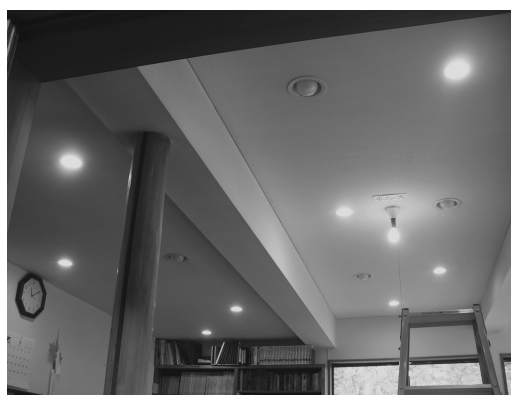


今回はゴールデンウィーク中に1階食堂の照明工事を実施しました。実用の観点から既存の照明設備と同等の明るさを確保することとし、60w形LED電球を12個使用、

既存設備とは独立した回路になっており、ミニ水力発電の電力だけで食堂全体の照明を賄うことができます。また、商用電源が停電した場合でも、平常時と変わらない明るさで継続的に点灯することが可能になりました。

今後は2階の工事を進め、山研の建物全体の照明をクリーンなミニ水力発電の電力で賄う予定です。

(柴山伸夫)



「上高地を美しくする会」 の活動に参加

5月27日、今期の「上高地を美しくする会」の活動に参加しました。ご存じのように上高地は、日本を代表する山岳景勝地として世界的にも知られ、年間120万人もの人々が訪れます。50年前の日本の観光地は、経済成長とともに観光ブームが到来し、上高地も登山者や観光客の投げ捨てたゴミが散乱して、ゴミ処理が大きな問題に陥ろうとしていました。

そのようななか、美しい上高地の環境を次代へ継承することを目的に「上高地を美しくする会」が1963(昭和38)年に設立されました。この会は、上高地の施設や団体、協力業者、関係官庁など多くの会員によって結成・支援され、毎年5月末から10月末まで隔週水曜日を一齐清掃日に定め、12回のゴミ拾いを行なう活動や、山岳地帯での清掃登山活動などを行なっています。

この日は初日ということで、ゴミ拾いと顔合わせ会が開催されました。朝9時、約70名の関係者が河童橋に集結し、左岸と右岸に分

かれて大正池ホテル前までゴミ拾いを開始。私は左岸を梓川沿いに田代池経由でゴールまで清掃しましたが、特に草むらの中を注意していると、菓子袋の切れ端やちり紙をいくつか発見。ペットボトルがない時代は空き缶が多かったようですが、さすがに空き缶は見当たりません。短いコースでしたが、行き交う観光客から「お疲れさまです」「ご苦労さまです」と挨拶を交わされると、やり甲斐を感じます。修学旅行生も多く、彼らの行動マナーも良かったです。

懇親会では、参加された関係者と親睦を深めることができました。今期は歩道の整備、草刈り・外来植物除去、ひこばえの刈り払い、登山道清掃、木道の落ち葉掃きなどが計画されておりますが、この会は、登山者や観光客へのマナーの普及啓発と上高地の人々のコミュニケーションを強める場となっています。

(安井康夫)



「山の日」記念切手を発売

日本郵便(株)は、8月11日が国民の祝日「山の日」に制定されたことを記念して、特殊切手「山の日制定」を8月10日に発売した。

「山の日制定」切手シートは、82円切手10枚で820円。発行枚数は900万枚(90万シート)。

10枚の切手のモチーフは、日本各地の代表的な山とそこに生息する動植物がデザインされている。

①大雪山(旭岳)と②エゾナキウサギ。北海道の最高峰と大雪山国立公園のシンボルのコンビ。

③岩手山と④コマクサ。みちのくの名山の代表と「高山植物の女王」

コマクサの組み合わせ。

⑤槍ヶ岳と⑥ヤリガタケシジミ。

日本アルプスきつての名峰と高地に生息するアサマシジミの一亜種。

⑦大山と⑧ダイセンキスミレ。

「伯耆富士」とその山名を冠するオオバキスミレの変種の一つ。

⑨くじゅう連山と⑩ホオアカ。「九州の屋根」九重連山とそこに棲むホオアカとの取り合わせ。

※お求めは、全国の郵便局またはオンライン通販サイト「切手SHOP」・銀座郵便局での郵便振替による通信販売など。

※問合せ先日本郵便(株)お客様サービス相談センター TEL 0120-23128186

山の日制定

8月11日は国民の祝日「山の日」



△原印刷株式会社製造
平成28年8月10日

第4回登山教室指導者養成講習会のお知らせ

「山の日」が施行され、ますます登山人口の増加が見込まれる状況ですが、基礎的な訓練の機会のないまま登山を続けている登山者が増加傾向にあります。これら登山者への安全登山の指導や啓蒙は、私たち日本山岳会に課せられた課題の一つだと考えます。

支部事業委員会では、入会された登山初心者に対して安全な登山を指導し、山登りのすばらしさを教えるための指導者の育成を目的とした講習会を、全国各地で開催していきます。今年度は宮城支部

主管により、左記のとおり仙台市を会場として講習会を企画しました。奮ってご参加ください。

(支部事業委員会 宮崎紘一)

月日 平成28年10月15日(土)・16日

(日)

場所 秋保温泉・岩沼屋ホテル

(仙台市太白区秋保町湯元葉

師107 TEL 022-3398

12011)

講義内容 10月15日 山の医療と

救急対策Ⅱ講師：野口いづみ

／地図読み・道迷い対策Ⅱ講

師：宮崎紘一／懇親会

10月16日 登山の安全管理と

対策講義と実技Ⅱ講師：松

原尚之ガイド／昼食後解散

参加費 1万5000円 宿泊

費・食事代(3食)・資料代含む

参加資格 本会会員で初心者引率

リーダーを目指す者

締め切り 9月30日(定員30名)

申込み・問合せ 宮城支部・高橋

二義まで(〒982-1082

3仙台市太白区恵和町3-27

TEL 022-2229-7850

FAX 022-2229-9186

✉ tgyochi@ams.odn.ne.jp)

*参加申込みされた方には後日、詳細なプログラムをお届けします。

東西南北

N

S

秘峰登山のススメ(中)

西川元禧

栃木県では奥日光の錫ヶ岳(2388m)がオススメ。菅沼キャンプ場から弥陀ヶ池、五色沼を経て前白根からの稜線に上り、奥白根山を右に眺めながら踏み跡を白根隠北峰(2385m)、白根隠本峰(2410m)、白檜山(2394m)などの展望の良い秘峰を越えて鞍部で幕営。水場は20分ほど下った所に水滴がしたたる程度の量だが、水のありがたさを肝に銘じる。翌朝、小ピークを越えて錫ヶ岳頂上に立つ。樹木に囲まれ展望はないが、南の宿堂坊山方面に少し進むと中禅寺湖や男体山などの展望が開ける。この山行では往復2日間、稜線や山頂ではだれにも会わなかった。

宿堂坊山(1968m)は錫ヶ岳

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

〽皇海山の稜線中間にあつて縦走もできるがヤブがやや深い。中禅寺湖北岸の千手ヶ原からも南東に張り出した尾根末端に取付いて尾根を忠実に登ると、踏み跡はないが針葉樹がまばらに生えているだけで、ヤブこぎもなく頂上に達することができ。樹木に囲まれて展望はなく、山名板があるだけの静寂が味わえる。

このほか栃木県では奥那須の三倉山本峰(1888m)もオススメ。三斗小屋温泉を出発し、大峠から西へ福島県との県境稜線を流石山(1813m)〽大倉山(1831m)〽三倉山(1854m)〽三倉山本峰と縦走して5時間40分ほどで山頂に達し、360度の大展望を貸切で楽しむことができる。それから先は唐沢山(1692m)を経て福島県下郷町音金集落に下山となる。

さらに栃木県では塩原の奥、男

鹿山塊にある日留賀岳(1849m)もオススメしたい。塩原の町外れ、木の葉石という所から北に向かい、小山さん宅(個人)の庭先から登る。頂上まで往復約10時間である。頂上は疎林に囲まれているが木の間越しに日塩道路と、その先の北東方向すぐ目の前に男鹿岳(1777m)が見える。

群馬・新潟県境で利根川源流の大水上山(1840m)もオススメ。私が最初に登ったのは三国川奥の十字峠から北東の尾根を越後三山・中ノ岳(2085m)まで登って休憩、三山縦走したときの懐かしい景色に再会して、東に続く稜線を小兎岳(1858m)、兎岳(1926m)と越えて大水上山にたどり着いた。梅雨明けのころで大きな三角雪渓が残っていて、水の乏しい尾根歩きにはありがたかった。豪雪地帯のため稜線には樹木が少なく、平ヶ岳や巻機山など奥利根の山々が遠くまで展望できる。大水上山から稜線を南に丹後山(1809m)を越えた小平地に避難小屋がある。この小屋は利根川源流の沢登りを楽しむ人たちにも貴重な存在だ。翌日は丹後山西尾根を十字峠へと下った。丹後山か

ら南の越後沢山(1861m)へは夏はネマガリダケの猛烈なヤブで進めない。残雪期に越後沢山〽下津川山(1927m)〽小沢岳(1946m)〽巻機山(1917m)へと縦走することができる。

奥多摩では東京・埼玉県境の西谷山(1718m)をオススメしたい。三峰神社を出発して白岩小屋に泊まり、翌日、白岩山(1921m)から芋ノ木ドツケ、長沢背稜に進み長沢山(1744m)〽水松山(1699m)〽西谷山と歩く。頂上は樹木に囲まれ展望はないが、静かな稜線歩きが楽しめる。この先、長い稜線を東に進み三ツドツケ(1576m)を経て川苔山(1364m)から奥多摩駅に下った。新潟県では未丈ヶ岳(1553m)がオススメ。奥只見シルバラインのトンネル途中のシャッターを開けて外に出ると登山口。1時間弱かけて黒又川まで下り、徒渉したら後は一本調子の急登でシンDOIが効率的に標高を稼ぐ。途中で荒沢岳や中ノ岳、越後駒ヶ岳などが見えて楽しい。山頂からの展望も良い。山頂の雪上で幕営し翌日、毛猛山の手前にある大鳥池を目指したが、ヤブがひどくて断念した。

Climbing&Medicine・73

健康長寿のための山登り① 運動習慣の作り方

齋藤 繁

「山登り」が健康増進、特に健康長寿に有効だという記述をよく目にします。私の在住する群馬県周辺の山々でも多くの中老年観光客、登山者が汗を流しながら坂道を登り、健康増進活動に励んでいます。下山の後の温泉も健康に良さそうです。

高血圧や心臓病、糖尿病の予防や治療として定期的に運動することが勧められていて、血圧が低下し、善玉コレステロールの増加、中性脂肪の低下など健康に良い効果が得られるとされています。そして、数ある運動の中でも、きれいな景色を眺めながら体を動かす「登山」や「ハイキング」は健康増進にとても有効な運動と捉えられています。特に、筋肉での栄養や酸素の消費が高まる坂道の登りでは心肺機能への負荷が増大し、こうした運動を無理のない範囲で継続することにより循環器系や筋骨格系、代謝内分泌系の機能が強化され、健康長寿につながることが期待されます。



特に血圧が低下して、善玉コレステロールが増加

しかし、どの程度の運動の頻度、負荷量が良いのかはだれしも迷うところではある

なお、過去のコラムは次の手順でご覧になれます。ご活用ください。

日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→医療委員 <http://jac.or.jp/info/iinkai/iinkai.html>

とき思い立って熱心に始めたものの、2ヶ月後に腰痛が悪化してやめてしまった、というような話は珍しくありません。また、ときどき歩くのでは効果が期待できないことから、毎日、2日に1回などのペースで長期に継続できる運動量に調節する必要があります。そうすると郊外の山の麓に住んでいる人以外は、「山」だけにこだわることなく、街中での定常的な歩行習慣と「山登り」を上手に組み合わせることが現実的になります。例えば、月曜日から金曜日は町内で毎日2～4kmの速歩、週末は郊外の山で5時間程度のハイキング、といったパターンが生活習慣病予防や健康増進には理想的と言えるでしょう。

「日常の健康管理として食生活改善に努め、併せて運動の習慣を付ける」ということを基本として、その上に、週末のお楽しみ運動、あるいはプチ・チャレンジとして、段階的に身体的負荷の大きい登山に挑戦していくことで、健康増進型登山者として大成できるのではないのでしょうか。

〈参考図書：上記内容の詳細は以下の書籍をご参照下さい〉

- 1) 齋藤 繁 著 『病気に負けない健康登山：ドクターが勧める賢い登山術』(ヤマケイ山学選書) 山と溪谷社 2010
- 2) 齋藤 繁 著 『「体の力」が登山を変える：ここまで伸ばせる健康能力』(ヤマケイ新書) 山と溪谷社 2014



「山登り」や「ハイキング」は健康長寿に有効といわれる

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です。

医療委員会

「山で虫を防ぐ」講習会

6月13日、夏山シーズンを迎えるに当たって医療委員会主催で、会員向け講習会「山で虫を防ぐ」をルーム104号室で開催した。講師は有害生物研究の秦和寿委員。参加者は21名であった。まず、冒頭で秦氏は日本の夏は蒸し暑く、熱帯のフィリピンと大差がない。それ故多種の害虫が多発する。縄文・弥生の時代から防虫対策は課題であり、「燻す、忌避する、蚊帳のように物理的に防ぐ」ことが行なわれてきた、と述べた。

次いで山の虫としてブユ、スズメバチ、アブ、ヌカカ、ヤブカ類、ヤマビル、ツツガムシ、マダニなどを紹介した。マダニが重症熱性血小板減少症候群、ヒトシスジマカがデング熱、ジカ熱を媒介するが、日本猩紅熱、ライム病、ツツ

ガムシ病なども虫が媒介する感染症である。山での防虫具として、原則的に長袖、長ズボン、帽子を着用し、マダニやヤマビルはスパッツの装着が有効である。昔ながらの防虫布である藍染め木綿の手ぬぐいも良い。

忌避剤としてディート、イカリジン、植物由来の柑橘類やハッカ（ハッカ鮓）などがある。虫刺され薬として抗ヒスタミンステロイド含有軟膏、マダニ除去のためにワセリン、エタノール、ベンジンの携行が勧められる。刺された場合の応急処置として、ブユは抗ヒスタミン＋ステロイド含有軟膏塗布、スズメバチは水洗後冷やして抗ヒスタミン＋ステロイド含有軟膏塗布、マダニは無理に取ると口器が皮膚内に残り結節となるので、ワセリンを腹側に塗って呼吸をできなくさせて、自然落下を待つのが良い。

多岐にわたる内容を、持参した虫の標本や防虫具を使用して分かりやすく説明した。

追加発言として野口いづみ委員が、防虫用ハッカ油の作り方、虫刺されの実例、虫刺され薬、マダニと重症熱性血小板減少症候群の実情、ハチ刺されに対する処置、アナフィラキシー・ショックの実態とエピペン、ジカ熱と最近の知見などを紹介した。

質疑応答はデング熱、ジカ熱、ブユ、ヤマビル、マダニ、ハチ刺されなどついでの話が多く、盛り上がった。大変参考になる充実した内容だった。

(浜口欣二)

山行委員会

大峰奥駈山行

大峰奥駈道は、私の長年のあこがれ道であった。山行委員会の企画に乗り、5月5日午後、近鉄吉野駅に集合した。北海道・青森・徳島支部所属のほかは首都圏の会員で総勢14名、男10人、女4人の一行である。

1日目 吉野駅から宿舎竹林坊までの3・2km。扁額に「発心門」と書かれている銅の鳥居を通ると、

日本山岳会の登山ではあるものの、修行をするのだという感を強くする。

2日目 山上ヶ岳まで19・4kmと長丁場なので5時30分出発。お昼ごろと予想された雨が9時半過ぎには降ってきた。見晴らしも狭まってきたが、ミツバツツジの紅紫色が単調さを消してくれる。五番関に女人結界の門がある。宗教的伝統であり、現代人に理解されるか難しいが、4人の女性はここから洞川に下りた。山上ヶ岳は大峰山とも呼ばれる大峰修験道最大の霊場で、鐘掛岩・湧出岩をはじめ多くの霊場・行場・宿坊がある。西の視では恐ろしいほど強い風雨が突き上げてきた。15時20分着。夕食は一汁二菜、落胆するほど典型的精進料理だった。

3日目 弥山まで16・4km、5時30分出発。今日も出だしから雨具を着ける。国見岳・七曜岳の岩場・鎖場も面白いし、ミヤコザサの疎林やバイケイソウの新緑がアクセントとなる。女性軍は行者還岳まで迎えに来ていたが、会えずじまいで八経ヶ岳での再会となった。16時30分着。

4日目 ようやく快晴となった。



奥駈道を行くメンバー

6時40分出発。八経ヶ岳から釈迦

如来立像が建つ釈迦ヶ岳は、奥駈道のメインコースである。送電線も道路も見えない大峰山脈の雄大な展望を十分に満喫しながら歩いた。釈迦ヶ岳山頂からは360度の展

望で、山並みの遙かかなたに山上ヶ岳を確認する幸運に恵まれた。

釈迦ヶ岳から小仲坊までは1000mの下りである。この急斜面を剛力岡田雅行が釈迦如来を担ぎ上げたというが、その一念に恐れ入った。修行門、等覚門、妙覚門を通って来たものの、「まだまだ修行が足りない」思いである。77歳を筆頭に平均年齢70歳のロートル集団は、年の割に足が速かったらしい。14・7kmを歩いて、16時50

分に着いた。

5日目 また雨。

4時30分出発。バス停の前鬼入り口まで10・0kmを歩き、6時40分着。バスに2時間揺られ、大和上市から近鉄に乗り替えて無事解散となった。征矢リーダーをはじめ、参加のメンバーに感謝したい。(大久保勉)

「信州 御座山とシャクナゲ満開の十文字峠」に参加して

日本山岳会会報「山」4月号の案内を見て、未踏の御座山と十文字峠のシャクナゲに魅かれて、初めて山行委員会の山行に参加してきました。

6月12日(日)7・10 植木淑美リーダーの下、老(元青年)若男女16名がチャーター・バスに乗り込みスタートする。天気図は九州南岸の低気圧が東進中で、今日はなんとか持ちそうだが、明日の関東平野は120%雨予報。リーダー

から臨機対応と承りひと安心。

すいすいと中央高速から川上村へ。見事なレタス畑の中を抜け、登山口の毛木平に到着。不要なものはバスに残し、十文字峠ピストンに必要な物だけの身軽な姿で予定どおり10・40に出発。緑、緑の中をゆっくりペースの私に合わせていただき、歩を進める。朝が早かったので11・10から昼食。だんだんと勾配が急になり、汗をかきながら高度を稼ぎ尾根に登り切る。

尾根越しの風が気持ち良い。下って来る人の話では、シャクナゲは2週間前が満開で、もう残っていないと。行ってみないと分からないのだと、淡い期待を頼りに頑張り、十文字峠に到着した。案の定、小屋の後ろに気まぐれシャクナゲさんがチラホラ、誇らしげにピンクに染まっている。山行案内に偽りなしだ。山行委員からご褒美の「きのこ汁」が振る舞われる。美味しいことこの上なし。大満足的笑顔で記念撮影。下山は楽勝。バスに戻り、予定より1時間早く今夜の宿「せせらぎの里」に到着。風呂で汗を流し食堂に集合。美味しい地元料理に地元ワインで延々2時間の宴。談笑尽きず。

22・08熊本で震度5の地震の臨時ニュース。皆さん大変でしょう。想いを馳せる。

ポツポツと雨が落ちだす。明日はどうなるか。

6月13日(月)昨夜半からの雨は続いている。7・00朝食のバイキング席上、リーダーから本日の予定が知らされる。正に臨機対応。雨中の御座山ピストンは難度が上がり厳しいので中止。「山歩き」の代りに「心歩き」に変更と。出発を1時間遅らせて、ゆっくりコーヒータムを取り、9・00に出発。宿の近くにベニバナイチヤクソウの



十文字峠付近の原生林 撮影=平田謙一

大群落がちやうど見ごろ。レンゲツツジも満開。バスを停めてカメラの放列。

「心歩き」のトップは甲斐小泉にある「平山郁夫シルクロード美術館」。作品絵画だけでなくシルクロードの国々の仏像、工芸品が展示されていて、時間を掛けてゆっくり鑑賞する。

次は清里の清泉寮へ移動し「ハケ岳自然ふれあいセンター」に駐車。バスの中で朝受け取った2段重ねのお弁当を食べる。雨がほとんど止んだので、さすがに山行委員会、近くの白樺林の遊歩道をひと巡りする1時間30分の散歩へ。歩くチャンスは逃さないのだ。折

り畳み傘だけの人から、上下ヤッケ、スパッツの完全武装の人までが出発。ゴールは清泉寮名物のソフトクリーム。掛け値なしに美味しい。ここでしか味わえないのだ。最後は須玉町にある、誰も知らない隠れた名刹「海岸寺」へ。16人中3人だけが再訪で、13人は初めてだ。養老元(717)年創建の古刹で、入口に「この寺は観光のための開放はしていません。人が生きて行く道を静かに考えるところです」と書いてある。観光客は皆無、我々だけだ。大木に囲まれて堂宇が並び、境内には江戸時代後期の石仏師・守屋貞治が制作した西国三十三箇所・坂東三十三箇所・秩父三十三箇所の観音霊場の、百個の苔むした観音さまの石仏が居並んでいる。心静かに手を合わせる。皆さんも肅々とバスに戻ってこられる。

御座山に行かなかったので予定よりも早く帰路につく。集中工事の渋滞も臨機対応ですり抜けて、17・50新宿に無事帰着した。

山行委員会のお陰で、心に残る2日間となりました。ありがとうございました。

(藤岡幸治)

支部



だより

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとレポートします。

越後支部

平成28年度越後支部総会と米山親睦登山

5月28日(土)に越後支部総会が新潟県上越市吉川区の「スカイトピア遊ランド」を会場にして開催された。

パラグライダーの基地がある尾神岳を背に新緑が眩しい小高い丘にある景勝地である。支部総会出席者47名、委任状125名で総会議決数172名(支部会員85・6%)である。

14時から遠藤家之進正和支部長の挨拶で始まり、4月9日〜10日の全国支部懇談会では予期せぬ事故があったが、支部会員の協力で無事終了できたことに感謝が述べられた。また、今年は越後支部創立70周年を迎え、その記念行事として、『日本三百名山』越後支部執筆担当21座全山登頂計画が3月か

ら始まっており、浅草岳、二王子岳、金北山、守門岳と天候に恵まれ成功しているの、残りの16座(焼山は噴火活動活発により半径1kmは立入禁止のため、中止)も安全第一で、越後衆の「鈍」と「根」でぜひ成し遂げてほしいと激励を受けた。



米山山頂での記念撮影

続いて桐生恒治副支部長を議長に選出し、議題審議に入り、平成27年度活動報告・会計報告、平成28年度活動方針・予算説明があり、若干の質疑を経て承認された。その後、各委員会からの報告があった。また、今年から8月11日が「山の日」として祝日になり、毎年7月25日に行なわれている「高頭祭」と「新潟県登山祭」を「山の日」制定記念事業とすることに決まった。8月11日は越後支部独自で公募の「親子登山」を行なう予定である。

2年前から始めた公募登山も、小山一夫事業委員長の下、参加者も増え、人気の行事となっている。また、昨年から新体制になり、支

部活性化を図るため集会委員会を設け、遠山實委員長を中心に「山靴・よりあいの集い」と称して講演・親睦登山などにも力を入れている。総会終了後、16時15分から記念講演となり、妙高高原ビクター・センター館長の春日良樹氏が「妙高の自然と登山者にできること」と称し、ライチョウの減少や外来種の植物の駆除などについてスライドを交えて話された。

その後、入浴を済ませてから懇親会となり、遠藤支部長の挨拶、そして橋本顧問の乾杯でスタート、遠くは神奈川県平塚市から駆けつけた東原進氏をはじめ、久しぶりの顔ぶれもあり、おおいに盛り上がり懇親を深めた。閉会は、佐渡・金北山でお世話になった藤井与嗣明氏から閉めていただいた。

翌29日(日)は21座全山登頂の一つ、「米山」で祝福するかのような晴天に恵まれ、橋本正巳顧問を総括リーダーとし、大島隆会員をリーダーに総勢36名、一等三角点と現在3点しか日本で確認されていない貴重な「原三角点」のある山頂で笑顔の記念写真を撮った。

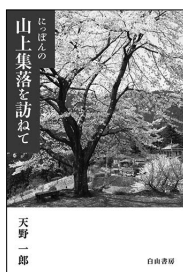
(佐藤レイ子)

図書受入報告(2016年6月～7月)

著者	書名	頁/サイズ	発行者	発行年	寄贈/購入別
栃木県自然環境課(編)	国際避暑地中禅寺湖畔の記録	64p/30cm	栃木県自然環境課	2016	栃木支部寄贈
清水満	大阪の山歩き100 : 街中から気軽に楽しむ山歩きガイド	182p/21cm	ナカニシヤ出版	2016	出版社寄贈
工藤隆雄	新編 山のミステリー : 異界としての山	254p/19cm	山と溪谷社	2016	出版社寄贈
穂高健一	燃える山脈 : 山岳歴史小説	438p/19cm	山と溪谷社	2016	著者寄贈
豊野則夫(編著)	東北・上信越・日本アルプス 沢登り銘溪62選	296p/21cm	山と溪谷社	2016	出版社寄贈
ヤマケイ登山総合研究所(編)	登山白書2016	288p/30cm	山と溪谷社	2016	出版社寄贈
田代博	地図がわかれば社会がわかる	190p/19cm	新日本出版社	2016	著者寄贈
橋本佳延	古写真から紐解く六甲山地東お多福山草原の移り変わり	162p/26cm	東お多福山草原保全・再生研究会	2016	著者寄贈
阿部亮樹	イラスト読図 : 地図読みは最強のリスク回避	174p/26cm	東京新聞	2016	出版社寄贈
滝本幸夫	北の山の栄光と悲劇(復刻版)	354p/19cm	柏艚舎	2016	著者寄贈
菅原信夫	続 丹沢 山紀行 : 丹沢の行者道を行く	302p/21cm	白山書房	2016	出版社寄贈
野坂勇作	分水嶺さがし(月刊 たくさんのふしぎ)	48p/25cm	福音館書店	2016	出版社寄贈
冒険フォーラム運営委員会(編)	なぜ、極地なのか : 植村直己が追い続けた世界	112p/21cm	豊岡市・植村直己冒険館	2016	発行者寄贈
馬聯芳	潘多伝(中国語版)	190p/26cm	上海社会科学院出版社	2005	須崎孝子氏寄贈
馬聯芳(著) 須崎孝子・他(訳)	潘多伝(邦訳)	83p/21cm	須崎孝子(私家版)	2015	訳者寄贈
藤岡換太郎	山はどうしてできるのか(講談社ブルーバックス)	238p/18cm	講談社	2014	購入
養父志乃夫	里地里山文化論(上巻): 循環型社会の基層と形成	215p/22cm	農山漁村文化協会	2009	購入
養父志乃夫	里地里山文化論(下巻): 循環型社会の暮らしと生態系	224p/22cm	農山漁村文化協会	2009	購入

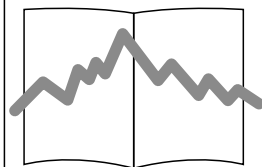
につぽんの山上集落を訪ねて

天野一郎著

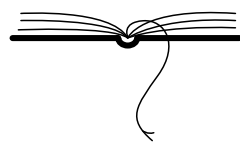


2016年2月
白山書房 166頁
四六判 1700円+税

急な樹林の道を息を切らして登っていったら、登り切った所に長閑な田園風景が広がっている。時間が止まったようなその情景に、郷愁をそそられ足が止まってしまふ。日本の山を歩いていると、そんな情景に出会うことはさほど珍しくない。全国至る所、山の中腹に宝物のような小さな桃源郷がある。訪れるたび、よくもこんな山の上に集落があるものだと感心させられるが、それにはいろいろな理由がある。ただ時代の流れとともにそれを語れる人はいなくなり



図書紹介



つつある。

本書で紹介している山上集落は関東・中部地方を中心に35。私が山の行き帰りに歩いた所も多い。いずれも「山の奥まった所にある集落、山の上や中腹の尾根上にある集落、標高はほぼ500メートル以上の所にある集落である。」

著者はそんな集落をために訪ね歩いては古老から昔の話を聞き出す。平家や武田氏の落人伝説、代々受け継がれてきた信仰や祭り。養蚕や炭焼き、木地物などの生業。山や野の恵み。などなど。どの話にも古き良き日本の原風景がある。

著者の天野一郎氏は奥多摩山岳会の会長。昭文社の山と高原地図「雲取山・両神山」にも携わるなど山におけるその活動範囲は幅広く、多忙である。その中でさらに山上集落を訪ね歩いて古老にインタビューする。興味がある世界とはい

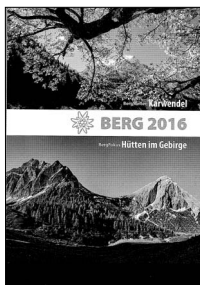
え、そのまめな仕事にただ感心するのみである。

山上集落の多くで高齢化が進み、人口が少なくなってきた。山上集落は時間とともに消えていく運命をはらんでいるのである。時代の流れとはいえ寂しいものである。そんなときだからこそ、本書の中で古老が語る言葉は貴重である。本書の登場人物の一言一言から失われつつある日本の原風景が見えてくる。それを記録することが、どれだけ大事なことか。

本書に登場する山上集落で、生活の営みが続いている所はまだまだある。本書を読んだ人にはぜひ、これらの集落を訪れてみてほしい。そして、その姿を目に焼き付けてほしい。きつとその光景はいつまでも光を放つ、その人の宝物になるはずである。(近藤雅幸)

ドイツ・オーストリア・南チロル
山岳会共編

BERG 2016



2015年10月
Tirolia-Verlag, Innsbruck
20.8×25.8cm, 264頁
18.90€

ドイツ・オーストリア・南チロル山岳会の合同年会報。これで創立当初からの『独逸山岳会時報』の創刊から数えて140年目の年会報になるが、別にそれを記念する記事がないのは10年後を期しているのか。今年号も2012年から始まった新レイアウトに沿って「山城特集」、「フォーカス」、「登攀」、「人」、「知識」、「文化」の各章に4〜6点の記事が配されている。恒例の付録地図を添えた「山城特集」は、バイエルンとオーストリアの国境地帯から北チロルを走ってインスブルックに連なるカルヴ

エンデル山域。記事の主要テーマはもちろん登山だが、4000年前から採掘されてきた銀・鉛・白金鉱山と岩塩地帯としてのカルヴェンデルの歴史が私には興味深かった。

「フオーカス」のテーマは山小屋。創立当初から今に至るまで独塊山岳会存立の原点である山小屋の過去、現在、未来を様々な観点から語る。独伊語の境界地帯に建てられた山小屋の、民族主義的な意味合いもテーマの一つになっている。

「登攀」の章の劈頭は競技スポーツ化した登山とクライミングの最近のクロニクルだが、フリースクライミングの起源と題する記事が、古い写真を含めて登山史好きには格好の読み物である。スカンジナビアのアウトドア文化も私には目新しい情報だった。

「人」の章に載せられた、90年前に26歳で墜死した片足のクライマーの追想録は、障害者の登山の先駆者を掘り起こしただけでなく、つい最近までタブー・テーマだった

オーストリア山岳会によるユダヤ人登山家の排斥の歴史にも触れている。もろ肌脱いで岩を登るイランの女性クライマーのポートレ

ト「世界への門としての岩」は、女性のチャドル姿に代表される一般的なあの国のイメージとの鮮烈なギャップに驚かされる。

「知識」の章では、相次ぐ考古学的発見により、アルプス高地における人間の営みが従来の通説よりも遙かに古いことを実証する「先史時代のアルプスの利用」が面白かった。

「文化」の一番の読み物は、なんといってもウインパーのマッターホルン登頂150周年にちなんだエッセイだろう。そのモチーフは「メント・モリ」。

この十数年、ドイツ語圏山岳会の年會報を読み続けてつくづく思うのは、いわゆる遠征記や登攀記がほとんどないことだ。それに代わって『ベルク』が深入りしているのは歴史である。まあ、私の趣味からいえばうれしい傾向だが、やはりちよつと寂しい。

(平井吉夫)



スズラン

会務報告

平成28年度第4回(7月度)理事会

議事録

日時 平成28年7月13日(水)19時00分～21時08分

場所 集会室

【出席者】小林会長、吉川・大久保・山田各副会長、神長・佐藤

各常務理事、勝山・中山・野口・大槻・落合・山賀・直江・谷内各理事、平井・重廣各監事

(所用のため山田副会長は業務執行報告事項9まで、直江理事は業務執行報告事項11まで欠席。協議事項2については直江理事出席後に協議した。)

【欠席者】星理事

【審議事項】

1・監査法人との財務に関する指導・助言業務契約の継続について
太陽有限責任監査法人との財務に関する指導・助言業務契約を継

続することについて審議した。(賛成12、反対なしで承認)

2・支部助成金及び新入会員報奨金の送金について
今年度は各支部に対して支部助成金2300円(会員1人当たり)、新入会員獲得報奨金4000円(新入会員1人当たり)を送金することについて審議した。(賛成12、反対なしで承認)

3・準会員規程の制定について
平成28年度通常総会での定款改正を受けて準会員規程を制定することについて審議した。(賛成12名、反対なしで承認)

4・賛助会員規程の制定について
平成28年度通常総会での定款改正を受けて賛助会員規程を制定することについて審議した。(賛成12名、反対なしで承認)

5・規定類管理規程「別表」の改正
規定類管理規程「別表」を現行に合わせて改正することについて審

議した。(賛成12名、反対なしで承認)

【協議事項】

1・会員増強施策への取り組みについて(小林)

会員増強を最重要課題とし、支部、委員会、同行会等各組織を通じて会全体で取り組むことについて協議した。

2・会員名簿発行に関する考え方について(佐藤・直江)

平成28年度通常総会において提案のあった会員名簿の発行について必要性、個人情報取り扱い等各方面から協議し、今後も継続して協議することとした。

【報告事項】

1・入会希望者10名について入会承認を行なったとの報告があった。(小林)

2・平成28年度通常総会の開催状況と今後の課題について報告があった。(佐藤)

3・平成27年度事業報告書の内閣府への提出について報告があった。(吉川)

4・8月1日(月)～9日(火)に「高尾599ミュージアム」において日

本山岳会関連の展示会を行なうことについて報告があった。(吉川)

5・7月10日(日)に行なわれた「マナスル初登頂及び国民の祝日『山の日』記念事業」の開催状況について報告があった。(大久保)

6・7月4日(月)に行なわれた同好会連絡会議の開催状況について報告があった。(佐藤)

7・(株)ポパルからの「山を考える」リーフレットの転載許可申請についての報告があった。(佐藤)

8・第17回ライチョウ会議長野大会からの後援名義使用承認申請について報告があった。(佐藤)

9・長野県安全条例に基づく「登山を安全に楽しむための指針」について報告があった。(佐藤)

10・H A T T Jからの国民の祝日「山の日」施行初年記念植樹への協力依頼があった。(佐藤)

11・会員データ管理システムの新しいシステムへの移行作業の進捗状況と今後の運用スケジュールについて報告があった。(山田)

12・会員データ管理システムと関連した会報「山」の發送形態、發送方法の変更と今後の見通しについて報告があった。(神長)

13・「山」目録の完成と広報方法に

ついて報告があった。(神長)

【連絡事項】

1・第59回高頭祭 7月25日(月) 彦山上大平園地

2・第1回「山の日」記念全国大会 8月10日(水)～11日(木) 松本市内、松本市上高地

【今後の予定】

1・公益法人に対する内閣府立ち入り検査 7月26日(火)10時～17時 集會室

2・再生委員会 8月1日(月)19時～ 集會室

3・日中韓三国学生交流登山の別れ会 8月18日(木)18時30分～ 檸檬屋(港区新橋3-2-2 TEL 03-3503-0772)

4・次期理事会等
・8月度常務理事会 8月2日(火)18時30分～ 集會室

・9月度常務理事会 9月6日(火)18時30分～ 集會室
・9月度理事会 9月15日(木)19時～ 集會室

・東日本支部合同会議 9月10日

(土) 11日(日) プラザエフ
・西日本支部合同会議 9月24日
(土) 25日(日) 大阪アカデミア

会員異動(7月)

物故

川井耿子 (5022) 16・6・21
小野里英次郎 (10536) 16・7・7
原 徹 (11714) 16・6・27
小尾 勝 (12146) 16・4・16

退会

佐藤 俊 (8751) 越後
山中保一 (8769) 東海
上岡謙一 (10203) 福岡
山本光伸 (11728)
神森登代子 (13221)
福和田規 (13580)
高崎勝代 (13700)
後藤 実 (14095) 東九州
齋藤慶介 (15716)

ルーム目誌 7月

1日 マナスル登頂60周年記念事業WG
4日 総務委員会 高尾の森づくりの会
5日 図書委員会 スケッチクラブ
6日 常務理事会 学生部

7日 YOUTH CLUB
8日 有志閑談会
11日 資料映像委員会 スキークラブ スケッチクラブ
12日 山岳研究所運営委員会 山行委員会 自然保護委員会 緑爽会
13日 理事会 休山会 山想倶楽部
14日 自然保護委員会 フォトクラブ 山岳地理クラブ 九五会
19日 スキークラブ
20日 青年部 三水会 つくも会 フォトクラブ
21日 科学委員会 支部事業委員会
22日 YOUTH CLUB 山の自然学研究会
25日 総務委員会 YOUTH CLUB
26日 デジタルメディア委員会
27日 自然保護委員会 麗山会
28日 公益法人運営委員会 学生部 山遊会
30日 土曜会 7月来室者 460名

◆第48回新入会員オリエンテーション開催のお知らせ

2015年7月から2016年7月の期間に入会された会員を対象に、オリエンテーションを開催いたします。

当会の組織や活動状況、図書室、山岳研究所等の施設の説明、委員会や同好会の紹介、山岳会のグッズ販売などを行います。終了後、懇親会を開催いたします。これから始まるクラブライフを楽しく過ごすためにもぜひご参加ください。

期日 9月3日(土) 13時30分～18時30分

場所 日本山岳会ルーム(東京市ヶ谷)

問合せ先 総務委員会 担当 武藤 睦 mutoh@enc.jp

インフォメーション

◆医療委員会主催・景信山メディカル・ハイキング

―実地で学ぶ山の医療―
内容 足がつったとき、虫・ハチに刺されたとき、足首を捻挫したときなどの対処法を医療委員会メンバーが現場で指導します。日ごろ知りたいと思っている山の医療についても委員にお尋ねください。

日時 2016年10月1日(土)
場所 景信山
集合 JR高尾駅北口(改札を出た所) 8時30分

経費 500円
定員 20名 先着順

参加申込み jyaci10kimen@yahoo.co.jp ルームにフックス、はがき(氏名、会員番号、連絡先、住所を記入)

テキスト『山の病氣とケガ』(野口いづみ著)

*詳細は参加申込み者に連絡いたします。

◆秋の紅葉山行(2題)ご案内

山行委員会

その1「会津 志津倉山と御前ヶ岳」

会津のブナ林で真っ黄色に染まっています。雪で磨かれたスラブを愛でに、鎖場、ロープ、鉄梯子を小気味よくクリアして会津の名山、志津倉山(1234m)に登りましょう。アクセスが難しい会津の山々と源泉掛け流しの温泉にチャーター・バスで訪れます。

日程 10月8日(土)～9日(日)1泊2日

集合 8日午前7時10分 JR新宿駅

解散 9日午後8時15分ごろ JR新宿駅

行程 8日 新宿―御前ヶ岳(歩程2・5時間)―宮下温泉(泊)

9日 宮下温泉―志津倉山(歩程5時間)―新宿

費用 3万円(バス代、2食付宿泊代、傷害保険料、雑費)

申込み 9月15日(木)までに 植木淑美宛て

FAX 042-734-1498

☒ sanko@jac.or.jp

その2「西上州の四ツ又山・鹿岳・荒船山に登る」

紅葉に映える岩肌、4つの鋸の歯状のピークを持つ四ツ又山、ラクダの背のような鹿岳、日本二百名山の荒船山に登り、岩場のスリルと展望を満喫しませんか。チャーター・バス利用です。

日程 10月29日(土)～30日(日)1泊2日

集合 29日午前7時 JR新宿駅南口

解散 30日夕方 JR新宿駅

行程 29日 新宿―下仁田―四ツ又山―鹿岳(歩程5・5時間)―南牧村(泊)

30日 内山峠―荒船山(歩程5時間)―下仁田―新宿

費用 2万1000円(バス代、2食付宿泊代、傷害保険料、雑費)

申込み 9月29日(木)までに 数見(すみ)直宛て

☎ 090-7204-4668

☒ sanko@jac.or.jp

*傷害保険加入のため、申込み時に生年月日をお知らせください。

詳細はHPに掲載中。郵送希望者には、詳細をお送りいたします。

◆山岳写真展「心に映る山々」

アルパインフォトクラブ

国内外の作品約40点を展示します。ぜひお立ち寄りください。

巡回 長野展

会期 9月22日(木)～10月6日(木)、10月12日(木)～22日(土)〈日曜休館〉

会場 長野市大門町柏与文具2F「柏与フォトサロン大門」

☎ 026-233-1181

巡回 東京・高尾山展

会期 10月8日(土)～10日(月)

会場 東京都TAKA O599 MUSEUM 2F

☎ 042-665-6688

第24回(2016)山岳写真展

会期 11月24日(木)～30日(木)〈10時～18時、最終日は15時まで〉

会場 東京四ツ谷 日本写真美術館「ポートレートギャラリー」

☎ 03-3335-13002

問合せ 川嶋新太郎 ☎ 03-33873-0907

訂正

●会報7月号(854号)16ページ「会員異動 退会欄」の有元久住氏の会員番号は「14892」の誤りでした。

◆編集後記◆

●田中澄江著『花の百名山』がひそかに人気で、ネット書店でも高値で取引されているとのこと。BSテレビの影響でしょうか、山の雑誌に連載したときの編集長としては、大変うれしい限りです。

●7月末は、その「花の百名山」の代表格、白山に行つて来ました。二十数年ぶりの再訪でしたが、観光新道上部のお花畑の美しさは、相変わらず見事でした。ところが、宿泊した白山室堂のサービスは、独占状態に胡坐をかいた旧態依然としたもので、あたかも某国の役所的対応(今の日本の役所は、そんなことはないそうです)でした。山小屋の対応で、その山の印象が決まることが間々あります。本当に勿体ないと思うのですが……。

(節田重節)

日本山岳会会報 山 855号

2016年(平成28年)8月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 小林政治
編集人 節田重節
Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社